

聖学院大学 第4回大学評価会議 報告書(総括)

I 聖学院大学 第4回大学評価会議 実施概要

1. 趣旨

聖学院大学の教育方針・内容及び学外との連携などを対象にした自己点検・評価による改善に関して、地元自治体及び地域の経済団体等からご意見・評価を頂き、一層の大学教育の拡充及び地域との連携の推進を図る。

2. 第4回テーマ

「学生が主役の大学・地域に開かれた大学形成を目指して」
今年度は、会議冒頭に本学の学生支援体制、学修支援体制等に関する見学会（キャンパスツアー）を行った後に、グループ討議形式により、ご意見・評価をいただいた。

3. 外部委員

日本薬科大学 学長 都築 稔 氏

放送大学埼玉学習センター 所長 堀尾 健一郎 氏

埼玉県教育局県立学校部高校教育指導課 教育指導幹 守屋 淑美 氏

上尾市市民生活部 次長 秋山 真吾 氏

さいたま市教育委員会学校教育部高校教育課 主席管理主事 石井 康仁 氏

埼玉経済同友会 専務理事 大石 克紀 氏

上尾商工会議所 専務理事 三井田 晴宏 氏

さいたま商工会議所 総務・会員サービス部長 八島 健 氏

さいたま北商工協同組合 副理事長 新井 一年 氏

埼玉県社会福祉協議会 事務局長 林田 泰明 氏

埼玉中小企業家同友会 代表理事 太田 久年 氏

4. 開催日時・場所

日時：2023年8月2日（水）午前9時30分～12時00分

会場：聖学院大学 1号館地下1階1Café、エルピス館エルピスホール他

出席者：外部委員 11名、内部委員 12名(1名欠席)

II 外部委員の意見・評価

議題1. 学生支援体制に関する事項

〔学修支援体制、学生支援(厚生補導)体制、キャリア支援体制〕

学内見学会(キャンパスツアー)に参加し、学生支援が充実している印象を持った。留学生に対する対応も良い。一方、支援により学生の主体性は育まれているのか。留学生センターや学生エンカレッジセンターで取り組んでいる、学生が学生をサポートする仕組みが更に浸透すると、自立の機会につながるのではないかと。学生が地域に出ていくことが必要であり、企業側が受け入れることも必要である。積極的に企業と学生のマッチングの機会を設けてほしい。

議題2. 地域連携活動に関する事項

学生がボランティアに熱心に取り組んでいる。学生がもっと主体的に取り組める事業を地元自治体としても案内しなければならないと考えている。地域連携、ボランティア、インターンシップなど良い活動をしているので、それらの活動を通じ、地元の企業を具体的に知ってもらえると良い。リアルな連携をもっと進めると良い関係ができるのではないかと。

議題3. 「地域に開かれた大学」形成・本学の評価を高めるための広報に関する事項

公式ウェブサイトやSNSは、充実した大学生活や等身大の学生の声が伝わる内容である。受験生の興味関心のあるテーマで生徒の関心を引くことも必要である。就職率や就職先を分かりやすく示してほしい。地域への広報という意味では、上尾に住んでいるが住民には届いていない。マスコミの活用、高校との連携、地元のイベントへの出展等で聖学院大学を見る機会を増やしていくとよい。

議題4. 聖学院大学の教育方針・内容に関する事項(Webフォームによる意見・評価)

〔内部質保証体制、自己点検・評価結果／教育課程編成・学修成果の可視化／入学者選抜〕

学内規定に基づいて自己点検評価活動が行われており、実質的に内部質保証体制が動き改善の実が得られている。学修成果の可視化についてはDPループブック等、立ち上げた体制の発展に期待する。入学者選抜が厳しい状況であることが分かった。学内の取組を入学者選抜や卒業生の成果(学問・就職など)に結びつけ、それを効果的に訴えることができるかどうか重要である。

III. 外部委員の意見・評価を受けた聖学院大学学長の所見・総括

今回の大学評価会議を通じて、聖学院大学は地域の皆さまからお力添えをいただきながら進んでいかなければならないとの思いを新たにしたい。本学の持っている、知的、人的、物的資源をこれまで以上に地域のために提供していくこととしたい。

今回の会議で頂戴した、高校や企業から寄せられた要望については(例えば、高校から要請があった「探求の時間」の授業開発・実施、企業からの求めがあった、ハラスメント防止、インクルーシブの観点からの職場づくり等)本学の教員たちの専門性に照らし、地域から寄せられている課題に応えていく教育パッケージの開発や提供を検討していきたい。

新学長として自身が研究テーマとして取り組んできた生涯学習の視点からも、大学と地域との連携・協力を通じた新しい学びの機会や交わりの場を創出し、それらを通じて大学と地域が相互に活力を得られるような取り組みを進めていくこととする。

聖学院大学がこの地になくってはならない大学として存在するために、今後も外部の皆さまから率直なご意見、ご提言を頂戴したい。

以上